

# 図書館サービスの機能向上について

令和6年3月

教育委員会事務局中央図書館

## 1 はじめに

区立図書館は、区民をはじめとする利用者の読書活動や調査・研究活動を支援するために、生涯を通じて図書館を活用できるよう関係機関と連携を図り、乳幼児から高齢者までの幅広い年代を対象にした図書資料を収集・提供している。また、各種展示やイベント、図書資料に関する情報提供などを通じて、区民に対して読書活動を推進している。

その結果、現在、幅広い年代の区民が区立図書館に多数来館し、読書活動や調査・研究活動を行っているほか、来館者が交流・活動する場が創造されている。

しかしながら、少子高齢化等の社会構造の変化、老朽化した施設の更新費用の増大、AI（人工知能）をはじめとするIT（情報技術）の発展、紙媒体の電子化及び動画コンテンツの増加など、区立図書館を取り巻くニーズや社会情勢は急激に変化している。

このような課題に対し、これまで図書館では電子書籍サービスの導入・充実や自動貸出機・返却機の導入をはじめとするICT化を実施してきたが、図書館の配置圏域の課題、老朽化する図書館への対応、指定管理を含む図書館運営のあり方など、更なるサービス向上に向けた課題解決が求められている。

一方、区立図書館については、「いたばし No.1 実現プラン 2025 経営革新計画」において、ライフサイクルコストの縮減を前提に、事業やサービスの提供方法や施設総量の見直しを検討するとしている。

こうしたことから、今後の図書館サービスの機能向上に向け、前述の課題を含むいくつかの課題の中から、利用者への影響の大きさを考慮して以下の4つの課題について検討し、考え方をまとめた。

課題1：図書館の圏域

課題2：氷川図書館、高島平図書館の施設整備

課題3：図書館運営のあり方

課題4：図書館の圏域から離れた地域へのサービス拡充

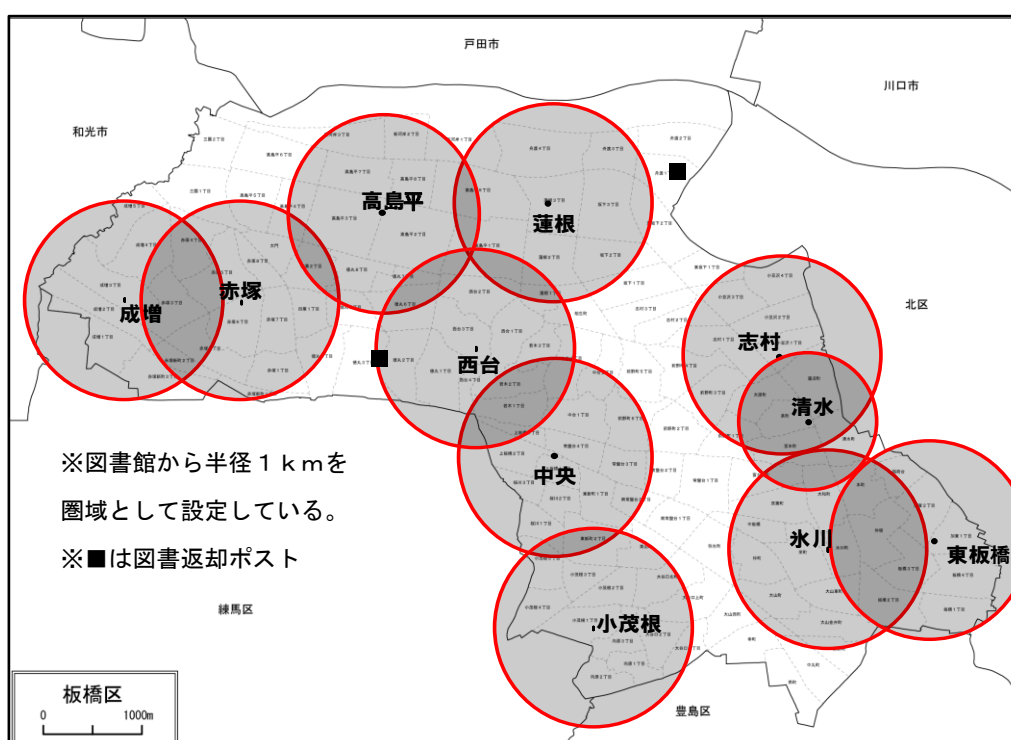


図 奉仕圏地図

## 2 課題と方向性

### (1) 課題 1：図書館の圏域

#### ア 各図書館の利用状況

区立図書館はボローニャ絵本館を併設する中央図書館のほか、10の地域図書館がある（11か所、12館）。

中央図書館の令和4年度の入館者数は829,475人と、新中央図書館開館前の令和元年度344,380人と比較して約2.4倍に増加している。これに伴い、貸出冊数731,391冊（令和元年度361,444冊と比較して約2倍に増加）や利用登録者数41,425人（同25,298人と比較して約1.6倍に増加）などの実績も大幅に増加している。

新中央図書館が開館した影響で、圏域が重なる西台図書館の令和4年度の入館者数は122,280人で令和元年度の158,178人と比較して約23%減少と区内図書館で最も少ないなど、実績が低迷している。一方、旧中央図書館から比較的近い清水図書館は入館者数が129,985人、令和元年度の93,856人との比較で約38%増加している。

	中央・絵本館	赤塚	清水	蓮根	氷川	高島平
入館者数(人)	829,475	174,277	129,985	169,466	206,367	370,397
図書貸出冊数(冊)	731,391	222,988	98,642	227,723	259,057	343,248
利用登録者数(人)	41,425	11,395	4,060	10,174	13,277	23,800

	東板橋	小茂根	西台	志村	成増	全館計
入館者数(人)	170,227	200,669	122,280	196,265	217,184	2,786,592
図書貸出冊数(冊)	218,103	236,402	166,444	299,498	251,111	3,054,607
利用登録者数(人)	13,307	12,720	8,626	15,522	19,470	173,776

図 各館の入館者数・図書貸出冊数・利用登録者数（令和4年度実績）

#### イ 図書館の設置基準

このように一部の地域図書館において実績の変化が見られるが、区の図書館の設置基準としては、人口5万人に対して1館と設定しており、令和5年4月1日現在で1館あたり面積2.9km<sup>2</sup>、人口51,825人をカバーしている。23区の平均値では1館あたり2.7km<sup>2</sup>、人口42,014人となっており、平均値に近い数値と言える。

#### ウ 今後の方向性

これらを踏まえて、現時点において12館の区立図書館の配置数としては、区の人口や面積などに対して妥当な数であり、現在の図書館の配置及び設置数は適正である。なお、図書館の圏域から離れた地域については、後述する課題4のとおり新たな取組を実施していく。

## (2) 課題2：氷川図書館、高島平図書館の施設整備

区では、「公共施設等ベースプラン（資料編）」において建築物の目標耐用年数を設定している。ベースプランでは、氷川図書館及び高島平図書館について、施設更新時期を第1期（平成31～令和7年度）としているため、具体的な整備に向け考え方を整理する必要がある。よって、以下のとおり考え方を整理する。

### ① 氷川図書館

#### ア 施設の現状

氷川図書館は昭和57年に竣工しており、「新耐震基準」を満たす鉄筋コンクリート造の建物で、長期の利用に耐えうる建築物として80年程度の目標耐用年数としている。また、随時外壁改修や空調設備・受変電設備の更新などの維持改修工事を行ってきており、長寿命化改修までは不要と考えられ、「新耐震基準」を満たしているため、耐震補強工事を行う必要はないと考える。

現状においては、未改修の重点部位（重点設備）である受水槽撤去による直結給水化工事などを行う必要がある。

#### イ 今後の方向性

以上のことから、氷川図書館については、現時点で築41年経過しているところであるが、当面の間は重点部位を中心とした維持改修工事を行うことで、この後40年程度使用する想定であり、引き続き老朽化などに対応していくこととする。

### ② 高島平図書館

#### ア 施設の現状

高島平図書館は昭和59年竣工ではあるが、老朽化などにより利用者から使い勝手が悪いといった意見が寄せられている。安全の観点から必要な外周タイル張替は令和5年度に実施したが、トイレ改修などについては今後の対応が必要となっている。一方、高島平図書館は高島平まちづくりの再整備地区に位置付けられていることから、まちづくり計画との調整が必要となっている。

#### イ 今後の方向性

以上のことから、高島平図書館については、高島平地域のまちづくりにおける、「交流核形成まちづくりプラン」に基づいた施設の再編整備を具体化していく中で検討していくこととする。

### (3) 課題3：図書館運営のあり方

#### ア 運営の現状

中央図書館及びいたばしBOROニア絵本館については、過去の図書館のあり方検討の結果を踏まえ中央館としての図書館政策の企画立案機能、指定管理者の統括機能、施設管理、資料選定、区主催で各所と連携したイベントの企画・実施を区職員が担っている。

この他にも区職員が担っているものとして、以下のものが挙げられる。

- ・図書館運営、改築などにおけるノウハウの継承
- ・唯一性、独自性を持つBOROニア絵本館の運営
- ・BOROニア市などとの継続した国際交流
- ・ブランド戦略「絵本のまち板橋」の発信拠点機能 など

実際に区職員が担っている具体的な取組として以下の事例のほか、各所からの視察や事業開催依頼への対応などが挙げられる。

- ・令和4年3月にBOROニア市立サラボルサ児童図書館と姉妹図書館提携 を締結、共同で姉妹図書館宣言を作成して各種交流事業を実施
- ・令和5年11月に板橋区と「友好都市交流協定」を締結しているBOROニア市より、市長をはじめとする訪問団が中央図書館へ来訪
- ・区のブランド戦略「絵本のまち板橋」事業として、文化・産業・観光振興や教育活動など様々な分野で絵本の要素を取り入れた取組を実施
- ・子ども司書制度の実施

また、地域図書館については、平成20年度から3館（氷川・東板橋・小茂根）、21年度から7館（赤塚・高島平・成増、清水・蓮根・西台・志村）の地域館10館すべてに指定管理者制度を導入しており、人件費などの経費削減や指定管理者の知見を活用したイベント・展示の企画・運営などの成果があり、それぞれの特徴を活かした運営がなされている。



BOROニア市長来訪





姉妹図書館提携締結1周年記念展示  
「イタリアの絵本」展



「絵本のまち板橋」推進事業  
講演会シリーズ「世界の書棚から」



ボローニャ・ブックフェア in いたばし



いたばし国際絵本翻訳大賞

## イ 今後の方向性

地域館の運営については、指定管理者により地域特性を活かした特色のある事業展開が図られており、今後も IT 技術の進展など、民間事業者による優れたノウハウを活用することにより、質の高い図書館サービスを提供することができるため、成果や効果検証を行いながら、指定管理者制度を継続していく。

なお、他自治体においては、図書館政策形成機能のみを自治体が有し、全館を指定管理者化するケースや窓口業務を全館業務委託して運営しているケースなどが見られる。図書館の運営形態については、引き続き他自治体の動向などを注視していく。



中央図書館



いたばしボローニャ絵本館

#### (4) 課題4：図書館の圏域から離れた地域へのサービス拡充

区立図書館は半径1kmの圏域を設定のうえ配置している。その一方で、坂下・志村三丁目地域、中丸町・南町地域においては、どの図書館の圏域からも離れている、いわゆる空白地域・不便地域が存在している。

区はこれまで、図書館との距離に左右されない施策として、令和4年11月に電子書籍サービスの導入や、令和5年4月に小さな絵本館事業などを実施してきた。

##### ① 電子書籍サービスの活用・充実

###### ア 現状

区では、令和4年11月に電子書籍サービスを開始して一定の成果を上げたが、電子書籍コンテンツの数が少なく、特定のコンテンツに予約者が集中するという課題がある。

###### イ 今後の方向性

電子書籍サービスについては新たに蔵書計画を定め、計画的に電子書籍コンテンツを導入し、更に充実させることで、図書館の圏域から離れた地域の利用者に対して、読書の機会をより多く提供できるよう推進する。

##### ② 小さな絵本館事業の推進

###### ア 現状

小さな絵本館は、区内の施設などに絵本を置き、買い物や待ち時間などの際に気軽に絵本を楽しめるスポットになっている。

###### イ 今後の方向性

引き続き、指定管理者事業の重点項目とすることにより、図書館以外の場所でも絵本を楽しめる環境を整えることで、子ども達が身近な場所で絵本に接することができ、読書機会の拡充を図り、「絵本のまち板橋」の推進につなげていく。



小さな絵本館（本庁舎）



小さな絵本館（赤塚庁舎）

### ③ 図書館の圏域から離れた地域への“新たな取組”

#### ■図書返却ポストの設置

##### ア 対策の検討

図書館圏域から離れた地域への対策として、図書館新設や貸出窓口設置、図書返却ポスト設置など様々な観点から検討を行った。検討の結果、施設設置については、前述したとおり、現在の図書館 12 館は妥当な数であり、また貸出窓口設置についても、図書返却ポストに比べ、場所の確保や、システムの配線・機器の設置、図書資料の管理や人的対応など、物理的な制約や高額な経費が見込まれることが大きな課題となるため、導入は困難である。

##### イ 今後の方向性

ただし、図書返却ポストについては、導入コストも低く、物理的制約や輸送経路における課題も設置場所及び輸送経路を精査することで克服することが可能であり、図書館の圏域から離れた地域への新たな取組として現実的に有効な施策である。これを踏まえて、新たに令和 6 年度から、坂下・志村三丁目地域及び中丸町・南町地域に図書返却ポストを設置することとする。



図書返却ポスト



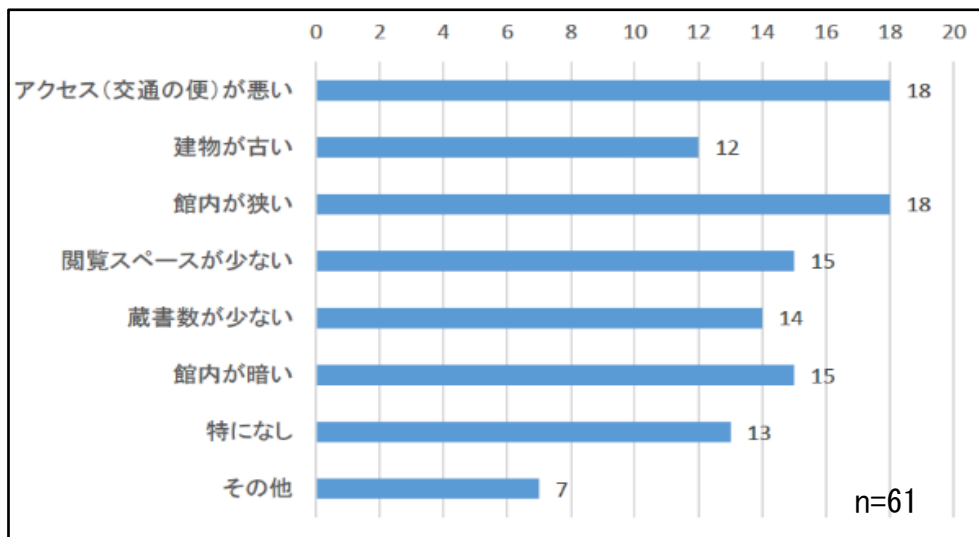
## 【参考資料】モニターアンケート

中央図書館では令和 5 年 7 月 31 日から 8 月 14 日にかけて、いたばし・タウンモニター及びいたばし e モニターに対して、区立図書館の運営についてアンケートを実施した。

その中から、今回の図書館サービスの機能向上検討に関係する主なものを記載する。

### (1) 氷川図書館の施設について

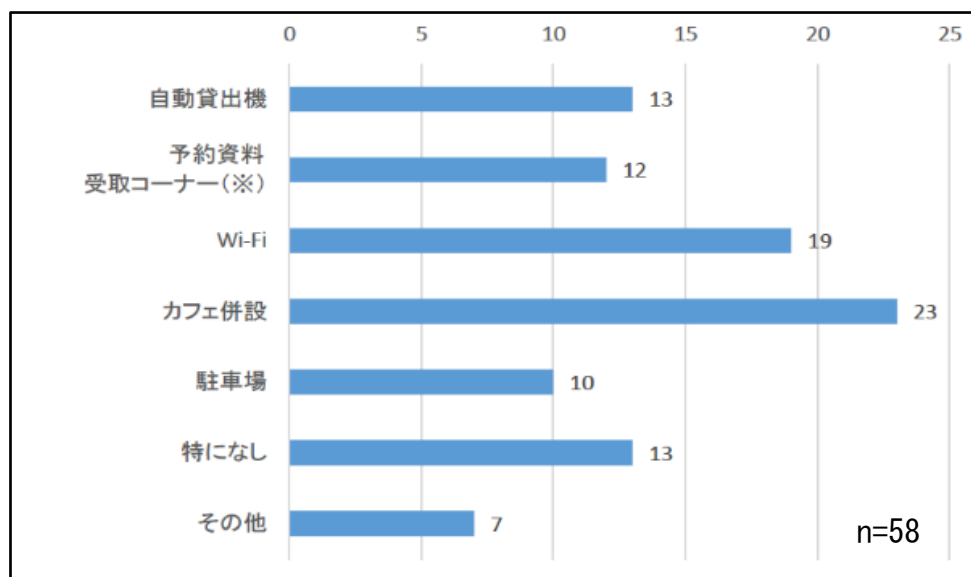
問：氷川図書館の施設について、不便だと感じることを教えてください。(複数回答可)



「アクセス(交通の便)が悪い」、「館内が狭い」と回答した人がそれぞれ 18 人(29.5%)で最も多かった。

### (2) 高島平図書館のサービスについて

問：高島平図書館に、どのようなサービスがあると良いか教えてください。(複数回答可)



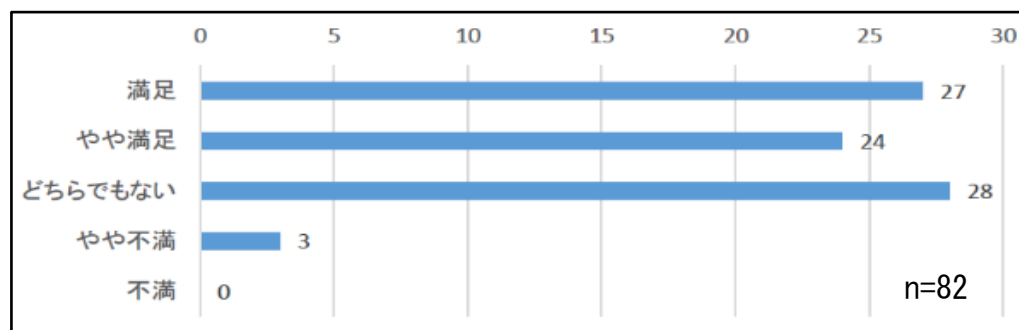
※予約資料受取コーナーとは、予約した図書資料がコーナー内の書架に置かれていて、自身が自動貸出機で貸出手続きを行う（非対面で図書資料の受け取りが可能）サービスのことです。

「カフェ併設」と回答した人が 23 人(39.7%)で最も多く、「Wi-Fi」と回答した人が 19 人(32.8%)で次に多かった。

### (3) 図書館の満足度について

#### ① 中央図書館

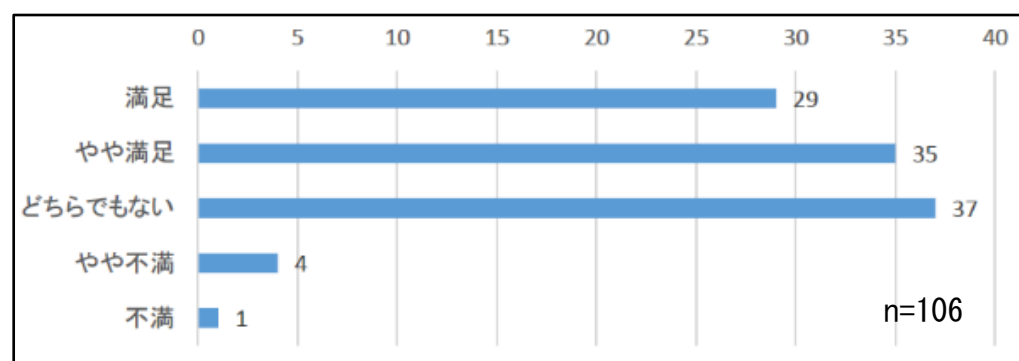
問：(中央図書館) スタッフのサービスの満足度



「どちらでもない」と回答した人が 28 人 (34.1%) で最も多く、「満足」と回答した人が 27 人 (32.9%) で次に多かった。

#### ② 最寄りの板橋区立図書館 (地域図書館)

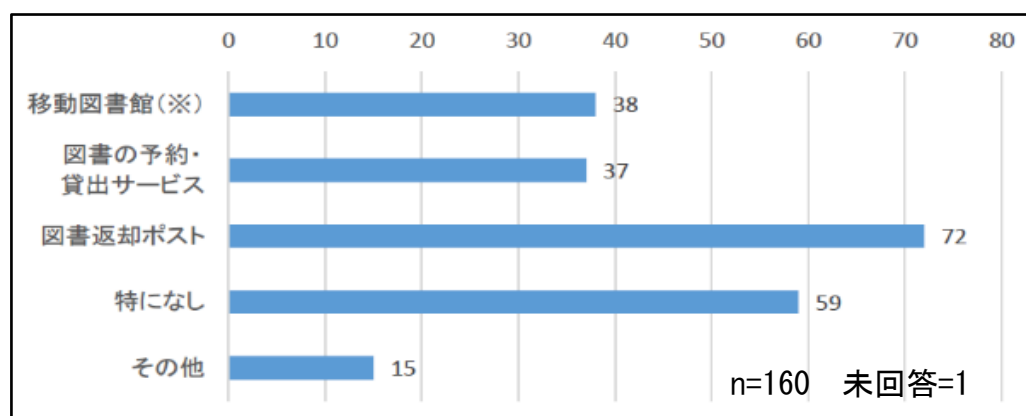
問：(最寄りの板橋区立図書館) スタッフのサービスの満足度



「どちらでもない」と回答した人が 37 人 (34.9%) で最も多く、「やや満足」と回答した人が 35 人 (33.0%) で次に多かった。

### (4) 図書サービスについて

問：お住いの地域にあれば便利だと思う図書サービスを教えてください。(複数回答可)



※移動図書館とは、週 1 回程度、図書資料を積んだ車両が地域を巡回し、予約した図書の貸出及び図書の返却が可能なサービスのことです。

「図書返却ポスト」と回答した人が 72 人 (45.0%) で最も多かった。「移動図書館」と回答した人は 38 人 (23.8%)、「図書の予約・貸出サービス」は 37 人 (23.1%) だった。